

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18106010	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	重度の疲労損傷を受けた鋼橋の機能回復・機能向上を目的とする橋梁再生工学の確立	研究代表者 (所属・職)	三木 千壽（東京工業大学・大学院理工学研究科・教授）

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A
	B
	C

(意見等)

本研究は鋼橋あるいは鋼橋橋脚に発生した重度の疲労損傷を機能回復、機能向上を図るために必要な、検査、診断、補修補強設計、施工、モニタリングの統合技術を確立するための研究であり、今後日本の社会資本が更新時期を迎えるため、極めて社会的意義の高い研究である。

研究計画は、その一部を除いて計画通りに実現されており、当初目標にむけて順調に計画が進行しているものと高く評価される。

今後は以下の点に留意して、計画通りの成果が得られるようにこれまで以上の努力が期待される。最終的な成果を確実に得るために、今後の研究が総花的にならないよう留意し、特に補修補強計画およびモニタリング、実物大構造モデルによる実証実験の開発を取り急ぎ実施するなど選択と集中が望まれる。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	平成21年度の研究進捗評価結果を受けて、モニタリングや実証実験を行い、初期の目的である疲労損傷を受けた鋼橋の検査、診断、補修補強設計・施工、モニタリングという一連の技術開発を行い、鋼橋の機能回復・機能向上のプロセスを完成させている。
A	研究成果の公表については、国内外のジャーナルに発表するとともに、招待講演や基調講演等を受けて、各種のシンポジウム等でも発表しており、国内外から高い評価を得ている。さらに、一般市民向けにも公表しており、本科学研究費補助金の目的に十分適った成果を挙げている。
	以上のことから、研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成されたと判断する。